

TARGET BIRDGOLF

JAPAN TARGET-BIRDGOLF ASSOCIATION

競技規則



2022年度版

【第1章】コース

第1条 競技は、一般社団法人日本ターゲット・バードゴルフ協会（以下日本TBG協会という）の認定コースで行う。認定基準は、以下の通りとする。

	認定常設コース	仮設コース
ホール数	9ホール又は18ホールを基準とする	常設コースに準ずる
ホール距離	①パー3（ショートホール） 40m未満 ②パー4（ミドルホール） 40m～70m未満 ③パー5（ロングホール） 70m～90m	常設コースに準ずる
パー総数	9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする	常設コースに準ずる
面積	9ホールにつき約7,000㎡とする	常設コースに準ずる
ティーイングエリア	台地状（3m四方）もしくは、周りのフェアウェイと区画線、柵等ではっきり区別をし、ティーマークを設置する	使用するグラウンドに準ずる
フェアウェイ	芝又は土が望ましい。幅は、6m以内とする	常設コースに準ずる
境界線	コースは、溝の中に砂を入れて区分するか、煉瓦で区分するか、ロープを用いて明確に区分する	ロープを用いて明確に区分する
バンカー／池	9ホールにつきバンカーと池を1ヶ所以上設置することが望ましい	9ホールにつき、池を1ヶ所以上設置する
標識	危険防止のための注意書き及び距離の表示等プレーに必要な表示をする	常設コースに準ずる
公認指導者	9ホールにつき1名以上	常設コースに準ずる
主な用途	日本TBG協会認定大会、講習会の開催	常設コースに準ずる

【第2章】用具

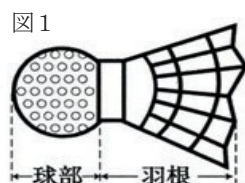
第2条 ボール（図1）

ボールは、ゴルフボール（球部）のようなものにバドミントンに似た羽根がついたものを言う。合成樹脂で、球部分と羽根のジョイントにはビスを用いる。

全長105mm、ボールの直径約40mm、羽の直径65mm以下、重量30g以下とする。

羽根は飛距離を抑える働きをし、羽根に付いたヒレは方向性の安定と転がりを抑制している。

ルールにおいてはボールの特殊性により、球部と羽根を区別することがある。



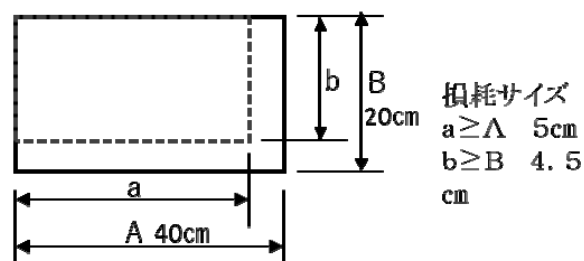
第3条 クラブ

TBGクラブ、又は一般ゴルフ用ウェッジクラブ1本のみを用いる。クラブヘッドの改造は認められない。

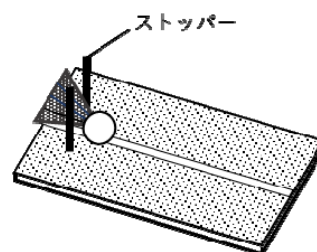
第4条 ショットマット（図2）

1. ゴルフ練習用ショットマット（40cm×20cm）を使用するが、ショットマットの全体の厚みは一定で2.5cm以下でなければならない。
2. ショットマットを使用する時は、地面に平らに置かなければならないし、マットの裏側を使用してはならない。
3. ショットマットを改造してはならない（曲げたり、裏面に貼り物をしてはならない）。危険のない紐などの把つてはショットに影響のない所に付けても良い。
4. ストッパーは常時付けたままにしてもよい。

図2 ① ショットマットのサイズ



② ストッパーの例(参考)



第5条 ホール（図3）

上部のホールをアドバンテージホール、下部のホールをセカンドホールと呼ぶ。

アドバンテージホールは、パラソル（傘）を逆さに立てた形で、ステンレス枠にネットを張った固定式と傘のようにたためる折りたたみ式があり、直径が約110cmとする。

セカンドホールは、合成樹脂のフープで直径が約86cm。

アドバンテージホールは、ステンレス枠にネットを張ったもので、先端を地面に打ち込んで使用する。地面に打ち込めない場合は、自立式のホール台座を使用する。

セカンドホールは合成樹脂製のフープとする。

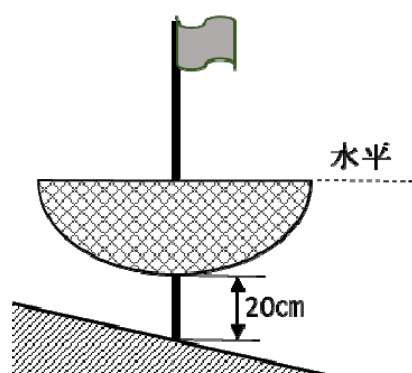
アドバンテージホールの設置は、差込棒を地面に打ち込むか、自立式のホール台座を使用するかがある。傾斜地では、地面よりアドバンテージホールのネットの底部から20cm、地面が平らなところでは、アドバンテージホールステンレスの枠のところから地面まで50cmとし、水平に設置する。

プレーヤーは、アドバンテージホール並びにセカンドホールに故意にふれてはならない。

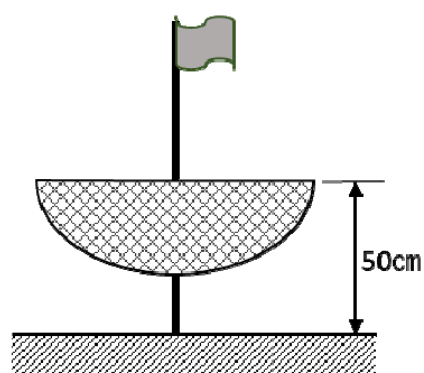
（ショットしたときにクラブがホールに触れた場合は故意と認めない）

日本TBG協会が認定したコース及び認定大会においては、固定式のアドバンテージホールが望ましい。ホールは日本TBG協会が認定したものを使用する。

図3 ① 傾斜地するとき



② 平地するとき



【第3章】競技方法

第6条 人数

通常4人一組でプレーする。

第7条 競技の種類

1. ストロークプレー

- ① スクラッチ競技:グロススコアで順位を決める競技
- ② ハンデキャップ競技:グロススコアからハンデキャップを引いたスコアで順位を決める競技

2. マッチプレー

- ① 各ホール毎に勝敗を決める。
- ② ハンデキャップを導入することもある。

3. 2人組戦 ワンボールフォアサムとツーボールフォアサムがある

- ① ワンボールフォアサム 最初のティーショットは2人のどちらかのプレーヤーが打ち、その後は最後まで交互に打ちスコアを争う。
- ② ツーボールフォアサム ティーショットに限りすべてのホールで全員で打ち、各組の良い方のボールを選び、その後は交互にプレーしてスコアを争う。

4. フォアボール

2人対2人が各自のボールをプレーして対抗し、各ホールで2人のベストスコアを採用し、勝敗を競う。

第8条 進め方

1. スタートホールでのティーショット（第1打）は、くじ引き、じゃんけん、コインのトス等によって順番を決める。
2. ボールがインプレーのときは、ホールから最も遠いボールを先にプレーしなければならない（遠球先打）。
3. 2ホール目以降のティーショットの順番は、前のホールで最も少ないスコアのプレーヤーからプレーし、以下順番にプレーする。
もし前のホールで2人以上のプレーヤーが同じスコアであった場合は、前のホールのティーショットの順番に従う。
4. プレーヤーが、プレーの順番をうっかり間違えてプレーしても罰はなくボールが止まっているところから次のプレーをする。

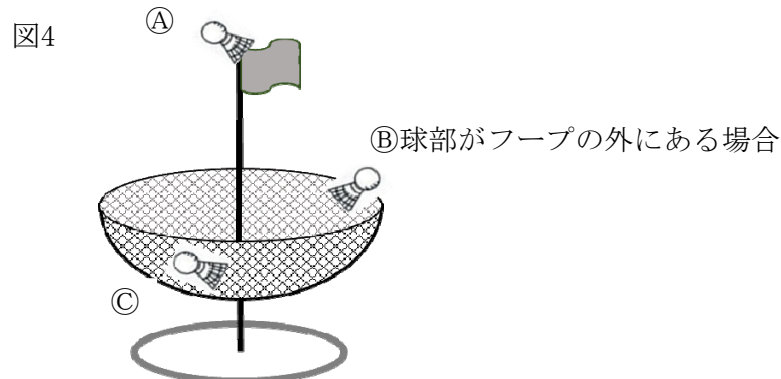
【第4章】競技規則

第9条 ストローク

1. ボールを正しく打ち、またボールを打つ意志でクラブを前方に動かすことを、ストロークという。つまり、ボールを打つ意志でクラブを振れば空振りであっても1ストロークと数える。ただし、クラブヘッドがボールに触れる前にスイングを中止したときは、ストロークを行わなかったものとみなす。
2. ボールは、クラブヘッドで正しく打たなければならない。クラブでボールをかき寄せたり、クラブやマットでボールを押し出したりして、ボールをホールに近づけたり、ホールから離したりした場合2打罰が付く。
又、ショットの時バックスイングをせずにストロークした場合すくい上げとなり2打罰が付く（ボールにクラブヘッドを接触してバックスイングせずそのままショットした場合）

第10条 ホールイン

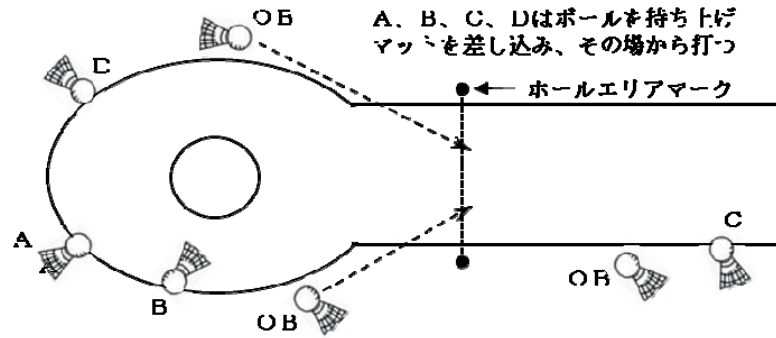
1. ホールインの判定は、ボールの羽根を除く球部で決まる。
2. ホールインの判定は、ボールを真上から見下ろして行う。
3. アドバンテージホールは、ステンレスの枠内にボールが入るか、ステンレス製の枠に球部が接していればホールインとする。
4. セカンドホールは、球部の真上から見てフープに球部が接していればホールインとみなすが、ストローク数に1打加える。
5. アドバンテージホールの判定と処理（図4）
 - (1) 旗あるいは旗竿に引っ掛っていればホールインとみなす。①
 - (2) ボールがアドバンテージホールの外側に引っかかったとき、球部がアドバンテージホール外で羽根がアドバンテージホールの内側に引っかかったとき、セカンドホールに入ったものとみなす。②③



第11条 アウトオブバウンズ（図5）

1. アウト・オブ・バウンズ（OB）区域とは、プレーが禁止されている区域のことをいう。
2. コースの境界線は、常設コースの場合、溝または煉瓦・ロープで標示し、仮設コースの場合は、ロープで標示する。
3. コースの境界線に球部が真上から見て接していればセーフとなる。
4. ホールエリアでのOBについては、すべてホールエリアマークの外側から打ち直す。
（ホールエリアとアドバンテージホールの距離は、約5mが望ましい）
5. ホールエリア内、又はフェアウエーでボールが、OBラインに接している場合、プレースによりボールの球部がOBラインの外になる時は、ボールを持ち上げて、ショットマットをボールの下に差し込み、ボールを、移動する事なく打つことが出来る。（差し込みの仕方は自由で、差し込んだ形になれば良い。ホールに多少近づいても良い）

図5



第12条 ボールがOBとなったときの処置 (図6)

1. コンパス方式

ボールがOBになった場合、1罰打してホールを中心とした円周上のコース内に戻すこと。

2. ドッグレッグ

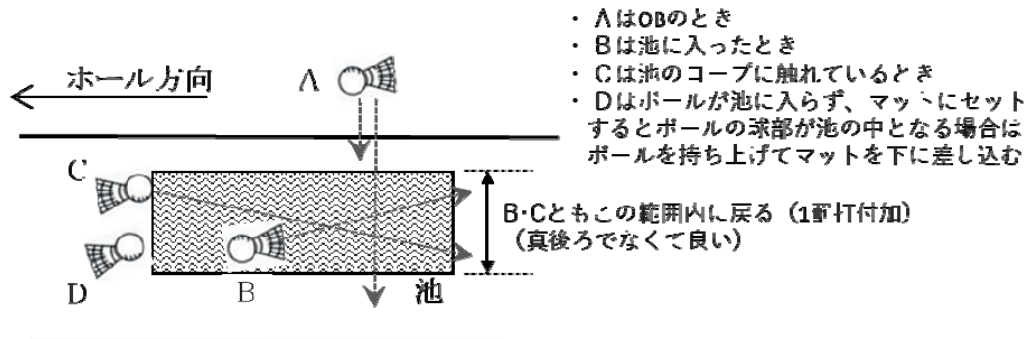
コースが極端なドッグレッグしているときは、コース状況を考慮してローカルルールを定めて競技することが望ましい。例としては、特設ティーを設けることを勧めます。

3. コースラインが煉瓦等危険を伴う場合、ホールに近づかない範囲でコース内のニヤレストポイントに入れてプレーすることができる。

4. ボールがプレー出来ない池に入った場合は、手前に戻って1罰打して次のプレーを行う。

5. 池の境界線に接しているときは、池に入ったとみなす。ボールが池に入らず、マットにセットするとボールの球部が池の中となる場合はボールを持ち上げてマットを下に差し込む。

図6



第13条 バンカー (図7)

1. バンカー内では、ショットマットは使用できない。

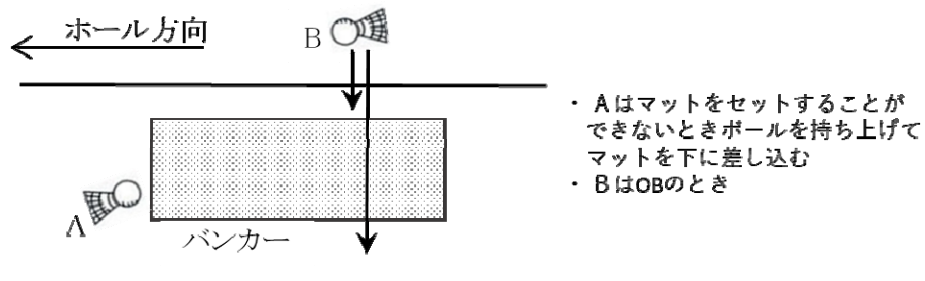
2. バンカー内でクラブを砂に故意に接触させない事 (罰打無し)。

3. バンカー内のボールの向きを変える場合は、持ち上げず球部を中心にして羽根の向きのみを変える。

4. バンカー内の石、木くず、葉等は無罰で取り除くことができる。

5. 2打罰でバンカー外からショット出来る。又バンカーに入らずセットするとマットがバンカー内の砂に付いてしまう時はボールを持ち上げてマットを下に差し込んでプレーする。

図7



第14条 プレース

プレースとは、ボールを拾い上げて「別の地点」に置くことをいい、規定の方法に従えばペナルティーは無い。また、動物などにより、ボールが持ち去られるなどした場合、そのボールがあった地点に別のボールを置くことができ、これもプレースという。

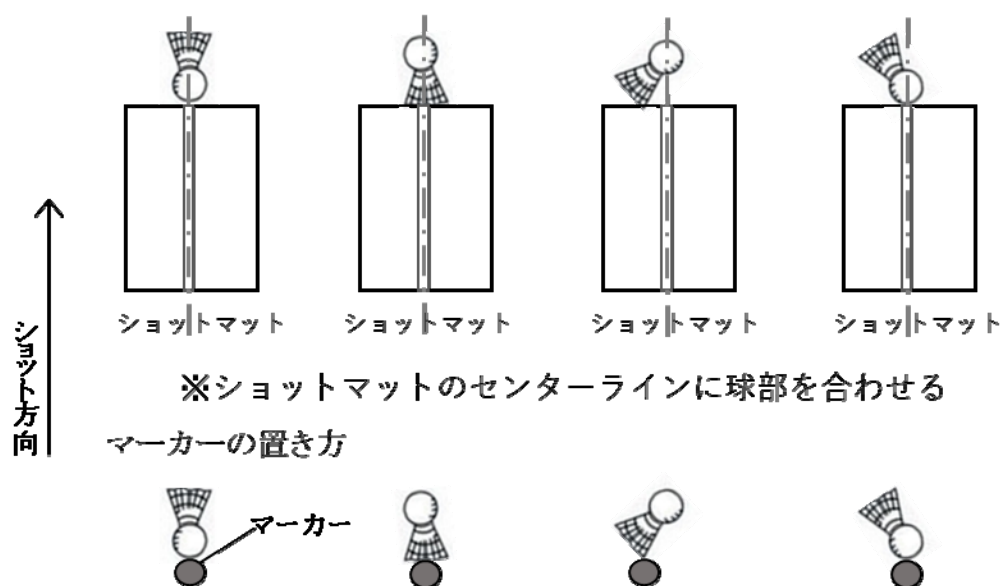
下記の方法に従えば、自由にプレースすることができる。このとき羽根の向きを変えてプレースしてもかまわない。

1. 打つ方向に向けてボールの真後ろにしかもショットマットの中央の白線に球部を合わせボールに接するようにショットマットを置く。
2. ボールを拾い上げてマットにボールをセットした後、ストロークが終るまでにショットマットの向きは修正は出来るが、前後に移動させる事は出来ない。（マットは動かせる）
3. ショットマットの最前方にボールを置く。（羽根の部分をマットの最前方に合わせる）
4. ホールに近寄らない「別の地点」におくことができる場合（ニアレストポイント）。
ボールを杭や煉瓦等でショット出来ない場合、安全なフェアウェイ内にプレースできる。

第15条 リプレース〈マーカ使用（図8）〉

リプレースとは、拾い上げた、又は動かされたボールを「もとの地点」に戻して置くことをいう。ボールを識別するため、あるいは他のプレーヤーの妨げとなるなどの理由でリプレースすべきボールを拾い上げる時は、マーカを使ってマークをしなければならない。但し、ボールを置くときは、もとの状態に戻す。

図8 マーカーの位置とショットマットの置き方



第16条 ホールアウト

1. アドバンテージホール及びセカンドホールにプレーヤー全員ボールを入れたことをホールアウトという。
2. プレーヤーはホールアウト後速やかにボールを拾い上げてホールエリアから離れなければならない。

第17条 誤球

1. 誤球したプレーヤーは1打罰で元に戻って打たなければならない。
2. 誤球をしたプレーヤーが、誤球のままホールアウトした場合2打罰を付加する。
誤球をされたプレーヤーは誤球されたボールを戻し、あったと思われる場所からプレーを続けホールアウトする。(無罰打)
4. 誤球されたプレーヤーが誤りに気付かないで他ボールをプレーしホールアウトした場合、誤球となり2打罰打を加える。

第18条 誤記

提出したスコアカードが間違っていた場合、本人のみ2打罰を加える

第19条 ティーショットの位置

1. スタート時のティーショットの位置を途中で変更してはならない。
2. 指定された場所以外のところからティーショットをした場合は、正規のティーの位置まで戻り1打とし2打目よりティーショットを行う。
(第1打はインプレーになっていないので、1打とは数えない)
3. 2打目以後にティーショット位置の誤りに気がついた場合は2打罰を加えホールアウトする

第20条 ホールの間違い

ホールの間違い気づいた時は、プレーを止め、又はそのホールをホールアウトしてから、元のホールへ戻りプレーを再開する事が出来る。その場合は罰打無しとする。

第21条 アンプレアブル

コース内の樹木、植え込み等にボールが引っ掛かったり、入ってショット出来ないとき、又はプレー出来ないで救済を受けるとき。この場合は、ホールに近づかない所に、コンパス方式によりプレーをするフェアウェイ内の動かさない障害物からは無罰で救済が受けられる。フェアウェイ外の動かさない障害物からの救済は無い。

【第5章】エチケットとマナー

1. ストロークを行う前に、クラブが当たる可能性のあるところに、人がいないことを確認しなければならない。
2. ストロークを行うときには、他の者は動いたり、大声で話したりしてはならない。
また、ティーインググラウンドには、ティーショットする者以外は立ち入らない。
3. 前の組のプレーヤーがボールのとどく範囲外に進むまで、プレーしてはならない。
4. ホールアウト後ホールエリア内でスコアの確認・記入をしてはならない。
5. 使用するボールに印（マジックのみ）を付けておくと良い。各自のボールを色によって確認しておく。
6. 自分を有利にする行為はしない。
7. 全員がホールアウト後、ボールを拾い上げることができる。ボールを拾い上げる時は、自分のボールは自分で拾い上げること。(誤球防止の為)
8. 同伴競技者全員のショットが終わるまで前へ出てはならない。
9. ジャッジは、セルフジャッジが基本であるが、異義があるとき同伴者の同意を得るか、競技委員の裁定を仰ぐ。
10. 前組との間隔をあけないようにプレーをしなければならない。
11. グリップに磁石を取り付けボールを拾っても良いがアドバンテージホールのボールを取ってはならない。
アドバンテージに触れてはならないルールに従う為
12. 危険防止の為に帽子をかぶる、ゴルフ用手袋を使用する。シューズはスパイクレスか運動靴。シャツはパンツ内に収納する。手拭いを首に巻き付けたリ腰にぶら下げたりしない。

ターゲット・バードゴルフ競技規則による罰打・失格一覧表

項 目	プ レ ー 内 容
一 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティーショットの失敗によりボールがティーイングエリア上に残ったり、フェアウェイに届かなかった場合。 2. ボールが コース外になったとき。 3. ボールが池に入ったとき。 4. コース内の樹木、植え込み等にボールが引っかかったり、入ってショット出来ないとき、又はプレー出来ないのので救済を受けるとき。 (この場合は、ホールに近づかない所に、コンパス方式によりプレーをする) 5. 一打目のティーショットの位置を間違えた場合。(正規の位置から2打目で打つ) 6. 誤球した時
二 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボールをクラブやマットで押し出したり、かき寄せたりした時。ボールを移動させた時。 2. ストロークでバックスイングをしないでショットした時。すなわち、すくい上げたとき。 (ボールをクラブヘッドに接触したままショットした時) 3. 誤球をしてホールアウトしたとき。誤球をされたプレーヤーが誤球した場合も同様。但し、誤球をされたプレーヤーは誤球されたボールを戻し、あったと思われる場所からプレーすれば無罰。 4. 2打目以後にティーショット位置の誤りに気がついた場合。 5. 提出したスコアカードが間違っていた場合、本人のみ2打罰打を加える。 6. バンカーに入った球をバンカー外の後方にプレースしてショットしたとき。

TARGET BIRDGOLF 競技規則

1988 年 6 月 17 日 制 定

2016 年 8 月 30 日 9 刷改定

2019 年 6 月 30 日 改 定

2022 年 9 月 30 日 改 定

発 行 所 一般社団法人 日本ターゲット・バードゴルフ協会

住 所 〒180-0023 武蔵野市境南町 3-11-11 武蔵野ヒルズ 101 号

電 話 0422-30-5290 F A X 0422-30-5291

JAPAN
TARGET-BIRDGOLF
ASSOCIATION



一般社団法人

日本ターゲット・バードゴルフ協会

〒180-0023

武蔵野市境南町 3-11-11 武蔵野ヒルズ 101 号

TEL .0422-30-5290 FAX .0422-30-5291